

健康

徳大病院
元気を支える医療



西良浩一
病院長

ですが、左側の内視鏡手術の切開部分と比べてみてください。いかに小さい傷痕が残っていないかが分かります。

この手術は当初、椎間板ヘルニアの治療だけを対象にしていたが、徳島大学病院では技術を進化させて高齢者の腰部脊柱管狭窄症に活用しています。

きわめて体の負担が少ない腰痛治療の手術として、局所麻酔をかけて内視鏡だけで行う方法があります。切開するのは、わずか8ミリ。写真①で、背中の中付近にあるのが過去の腰椎手術の傷痕

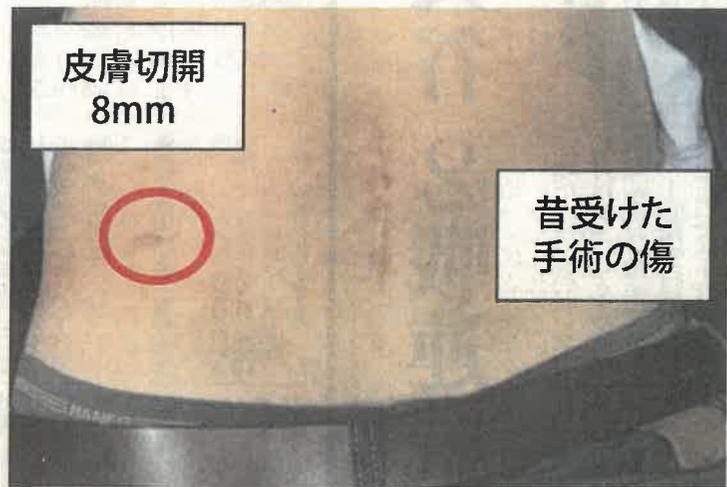
腰部脊柱管狭窄症とは、脊椎にある脊柱管という神経を囲んでいる管が狭窄する疾患で、脊柱管から神経が出て行く部分が多くなる椎間孔狭窄

技術応用 体の負担少なく

窄、脊柱管の外側くぼみ

(陥凹)の骨構造が変性して起る陥凹部狭窄、脊柱管が全体的に狭くなる中心性狭窄の3種類があります。このうち陥凹部狭窄と中心性狭窄に対する局所麻酔での内視鏡手術は、徳大病院が世界で初めて実施しました。骨がずれるすべり症や、ねじれを伴う曲がる側彎症を伴う場合、スクリーやボルトなどを用いて固定術を行います。通常は背筋を大きく切開しますが、徳大病院では内視鏡を使って体に優しい固定術を行っており、KLIFF(全内視鏡下トランスカンビン腰椎椎体間固定)手術と呼びます。

5力所を小さく切開するだけで手術が可能となります。4本のスクリーと椎間板内ケージを小さく切り、患部に入れて固定します。現時点で痛みなど体への負担が最も少ないと言ってもいい固定手術です。



皮膚切開 8mm

昔受けた手術の傷



第4腰椎

第4腰椎

第5腰椎

第5腰椎

【上】写真①局所麻酔をかけて内視鏡だけで行う手術の傷痕(左)。従来の手術の傷痕に比べて小さい【下】写真②手術前(左)と手術後(右)のCT画像。神経を圧迫していた骨が摘出された(丸で囲まれた部分)

37診療科を備え、四国最大の規模を誇る徳島大学病院。安全で体に優しい先端医療や健康支援医療の推進に取り組む同病院の専門医に、病院で実践している最新の治療法を紹介してもらう。

内視鏡手術 腰痛治療にも